



陽性者サポートプロジェクト関西 (POSP) は、厚生労働省エイズ戦略研究 MSM 京阪神グループにより運営されています。この四つ葉の POSP マークには、関西における支援・相談体制充実へ向けての願いが込められています。

HIV迅速検査会

MaQ

@ PLuS+ FINAL

Mobile and Quick 'HIV Testing' @ PLuS+ FINAL

報告書

厚生労働省科学特別研究事業「エイズ予防のための戦略研究」

首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象とした

HIV抗体検査の普及強化プログラムの有効性に関する地域介入研究

研究リーダー・市川 誠一

HIV 迅速検査会

MaQ

@ PLS+ FINAL

Mobile and Quick “HIV Testing” @PLuS+ FINAL

報告書

エイズの予防と共生をテーマにした野外イベント
『PLuS+ FINAL ～For The Next Challenge～』における
HIV 迅速検査会の実施について

MASH大阪
厚生労働省エイズ予防のための戦略研究

協力機関：大阪市保健所
大阪府立公衆衛生研究所
特定非営利活動法人 CHARM
特定非営利活動法人 関西エイズ対策協議会
そねざき古林診療所

目次

実施に至る背景	1
PLuS+ FINAL 全体概要	2
HIV 迅速検査会 『MaQ』 @ PLuS+ FINAL 実施内容	
目的・対象・特色	3
留意点・実施概要	4
各パートの役割と手順	6
実施結果1「受検者について」	13
実施結果2「スタッフについて」	19
考察・まとめ	22
添付資料	
添付資料1：検査案内所で配布した資材セット（一式）	23
添付資料2：受検希望者への事前配布資料「今日の検査を受検希望される方へ」	24
添付資料3：リスクスクリーニング用「確認用紙」	26
添付資料4：「確認用紙」を用いてリスクスクリーニングをする時の判断基準	27
添付資料5：検査結果引換証	30
添付資料6：事前説明資料	31
添付資料7：感想アンケート用紙	34
添付資料8：結果お知らせ時に渡すパンフレット	36
添付資料9：紹介状	38
添付資料10：受診回答書	39
添付資料11：結果通知、カウンセリング担当者マニュアル	40

実施に至る背景

大阪府におけるエイズ発症報告数は年々増加しており、感染者と患者を合わせた全報告数におけるエイズ発症報告数の割合も近年増加している。一方で、MSM における HIV 検査の生涯受検率は増加（約 50～70%）し、過去一年間の受検率は横ばい（30～40%）である。2009 年 9 月までの土曜日常設 HIV 検査における MSM 受検者の割合も、堂山近辺で実施していた期間（20%）に比べて難波での実施期間（12%）は低くなっていた。MSM における受検経験率は一定率に至っている状況がある一方で、検査ニーズがありながら、受検にいたっていない層が存在することが推測され、受検環境に関して既存の検査相談場面に新たな工夫を加える必要があると考えた。

このような状況のもと、特に検査ニーズがありながら受検にいたっていない可能性のある層に対して、どのような検査相談機会を提供するかについて、MASH 大阪、大阪市保健所、大阪府立公衆衛生研究所、(特)CHARM のメンバーを中心にして、そねざき古林診療所、(特)関西エイズ対策協議会とも連携しながら準備検討会議を重ねた。

その結果、HIV 感染の可能性の高い状況にありながら、わざわざ HIV 検査には行かない人に受検してもらう機会を創出するために、

- 1) MSM が多く集まるイベント PLuS+の開催に合わせて実施すること（対象者のところに出向いていく検査相談）
- 2) 迅速検査を導入すること、確認検査を当日中に行なうこと
- 3) 予算・時間的に限界設定が必要な中、対象者とする人により多く受検してもらうために、事前広報は行わないこと、およびリスクスクリーニングを導入すること
- 4) 実施する前提として相談支援環境を十分に準備すること

などを決定した。

また検査会場の設定に関して、

- ア) HIV に対して特別視や匿秘しないことを提案するためにオープンな検査会として、イベント会場で採血をすること
- イ) 要確認検査結果を受け取った人にとって、結果を知った直後に（確定ではなく確認検査待ちの状態）イベントに来ている人の中に晒されることに配慮し、別会場（隣接会場）で結果通知を実施すること

を決定した。

PLuS+ FINAL 全体概要

■コンセプト

エイズや性感染症の問題は、“正しい知識や道徳観”の一方向的な押し付けで解決できる問題ではない。お説教や小難しいお勉強は“厄介で面倒くさいもの”として、むしろ人々の関心を遠ざけてしまうおそれがある。

そこで PLuS+では、Edutertainment（エデュターテイメント=Education+Entertainment）の手法を用いた。すなわち、普段あまりエイズおよびその他の性感染症に関して積極的に関心を持っていない人々に対して、“お祭り”の高揚感の中で、エイズ/性感染症に関する情報（Education）と楽しい事（Entertainment）をセットにして提供した。これにより、人々がお祭りを楽しむために来場し、楽しんだ結果として自然に予防啓発と共生のメッセージに触れ、共有されることを目指した。

- ・コミュニティ形成要素として重要で、目に見えるインパクトを持つ“お祭り”を実施する事で、参加者の当事者意識を喚起するとともに、社会的な関心を高揚させ、エイズの予防と共生について、コミュニティレベルでの共通の課題としての意識を醸成することを意図した。
- ・公園という公共のスペースで開催することにより、エイズ問題の存在を顕在化させ、広く社会的な関心を高揚させることを目標とした。

■企画概要

名称：PLuS+ FINAL（プラス ファイナル） ～For the Next Challenge～

会期：平成22年10月10日（日）

*開催前の約1ヶ月間「United PLuS+」として、期間中、様々な関連・協イイベントや企画が、京阪神地域各所で開催された。

会場：メイン会場（扇町公園）／サテライト会場（扇町公園周辺及びミナミの各イベント実施会場）

主催：MASH 大阪／PLuS+実行委員会

共催：大阪市保健所（平成22年度大阪市個別施策層向けエイズ予防啓発事業）

厚生労働省（科学特別研究事業「エイズ予防のための戦略研究」）

財団法人エイズ予防財団（エイズ対策研究推進事業「研究成果等普及啓発事業」）

内容：メイン会場では、3つのパビリオンと“レディオ・ステーション風”ブースにおいて、展示、トークセッション、ワークショップ、シンポジウム、音楽ライブ、エンターテイメントショーなどを通じてエイズの予防と共生に関するメッセージの発信が行なわれた。また、エイズを含む性感染症（STI）の予防啓発や、HIV陽性者の治療やサポート活動を行なっている団体や当事者団体のブース、それらへの直接的・間接的支援を行っている団体・企業のブースにおいて、それぞれの活動報告や情報・資材の提供を行なった。その他に屋台（模擬店）やフリーマーケットなどもあわせて行ない、エイズを含む性感染症（STI）に関する情報を、参加者が楽しみながら自然に受け取るしかけを会場全体でつくりだした。

■実施結果

扇町公園会場への、来場者のべ人数約14,142人であった。来場者の会場内への平均流入頻度は2.24回であったため、扇町公園会場への推定来場者実数は6,320人と推計された。来場者居住地は大阪府59.0%、次いで兵庫県11.7%、京都府6.4%、滋賀県2.8%、奈良県2.4%、和歌山県0.6%・・・その他となっており、来場者の約8割（推計5,056人）が近畿在住者であった。来場者の性自認は、ゲイ（男性同性愛者）57.8%、バイセクシュアル（両性愛者）7.7%、レズビアン（女性同性愛者）2.1%、トランスジェンダー1.5%、ヘテロセクシュアル（異性愛者）13.4%・・・その他となっており、来場者の約7割（推計4,424人）がゲイ・バイセクシュアルであった。

HIV 迅速検査会『MaQ』 @ PLuS+ FINAL 実施内容

●目的

HIV 感染の可能性の高い状況にありながら、わざわざ HIV 検査には行かない（または行けない）人たちへ、「来るのを待っている」のではなく「いる場所に向かう」スタイルでの HIV 検査相談を提供することにより、潜在的 HIV 陽性者の早期受検・早期受診を促進し、発症してから HIV 感染に気付く人を減らす。

●対象

HIV 感染の可能性の高い状況にありながら、わざわざ HIV 検査には行かない人（MSM を中心として）

●特色

(1) わざわざ HIV 検査には行かない人に対して、受検へのハードルを下げる

ア) **検査に「来るのを待っている」のではなく「いる場所に向かう」**

→ MSM が多く集まるイベント PLuS+ の開催に合わせて会場内で検査会を実施

イ) **迅速検査を導入**

→ 迅速検査を導入して、スクリーニング検査で陰性結果の場合は 1 日で、要確認検査結果の場合は翌日に確認検査結果通知をすることにより 2 日で完結させ、利便性を高める

(2) HIV 感染の可能性の高い状況にある人に受検機会を提供する

ウ) **リスクスクリーニングを導入**

→ 受検希望者に対し「確認用紙」を用いて個別にリスクスクリーニングを実施

エ) **積極的な事前広報をしない**

→ 検査会を大きく広報はせず、PLuS+ FINAL の広報誌でブースのひとつとして簡単に紹介

(3) 十分な支援・相談体制を提供する

オ) **臨時電話相談実施**

→ POSP 電話相談（陽性とわかった人のための電話相談）が、本検査会にあわせ臨時相談を実施（10 日 14 時 30 分～21 時、10 月 12 日～16 日 19 時～21 時）

カ) **必要な相談相手にいつでも相談できる体制を準備**

→ 採血会場および結果通知会場に相談員とカウンセラーが待機

→ 確認検査結果通知会場にカウンセラーとソーシャルワーカーが待機

キ) **PLuS+ FINAL に出展するサポート関連ブースとの連携**

→ PLuS+ FINAL に出展するサポート関連ブースに、受検者への情報提供や相談の案内を依頼

(4) 官民の密な協働による事業計画と運営

ク) **それぞれの機関・団体の特性を活かした役割分担**

→ 厚生労働省（科学特別研究事業「エイズ予防のための戦略研究」）に基づき実施

→ MASH 大阪：主催としてイベント全体を運営し、検査会場を準備

→ そねざき古林診療所：巡回診療として実施

→ (特)CHARM：検査会のオペレーションデザインとスタッフトレーニングを担当

→ 大阪府立公衆衛生研究所：検体分析と感染性廃棄物の処理を担当

→ 大阪市保健所：関係諸機関との調整や結果を受け取りに来なかった人への後日対応を担当

→ 大阪市北区保健福祉センター：迅速検査結果通知会場として休日開館

●留意点

- ①主な対象が検査を目的に来る人ではないため、受検者の検査を受けることや結果を受け取ることへの準備性は低いと予想される。また、イベントとしての高揚感と検査のシビアさの間には落差が大きい。そこで、支援・相談・医療のリソースを充実することに努めた。
- ②受検者に検査結果を確実に受け取ってもらえるよう、検査を受けようと思う人へ向けた案内資料を作成して受検受付の前に案内所で配布し、要確認検査結果の場合は、最終結果通知は翌日であること等を情報に含めた。また、対象を絞りこむために導入したリスクスクリーニング場面において、結果を受け取ることが可能かということ、およびイベント会場における検査を受検する意思を確認した。
- ③要確認検査や陽性とわかる人のために、地域に存在する支援サービスとの積極的な連携によりサポートを充実させた。準備したサポートには、陽性者向けの電話相談との連携による検査会のための臨時電話相談実施、採血および結果通知会場に相談員待機、陽性結果通知場面にカウンセラーやソーシャルワーカー待機、陽性者向けサービスの資料配布、PLuS+に出展するサポート関連ブースとの連携などが含まれた。なお、陽性とわかる人に紹介する医療機関についても初診時の手続きを含めた情報を収集するとともに紹介させてもらうことを伝えた。
- ④イベント会場の場で要確認検査結果を受け取るとは受検者にとって心理的負担があるということが危惧されたため、結果通知会場をイベント会場の近隣の別会場に設置した。これにより、要確認検査結果を受け取った人の中でイベント会場に戻りたくない人にとっての選択肢を設けることができた。
- ⑤匿名性の保持のため、受検者には受検番号を発行し、その番号にてすべての行程を実施した。HIV 陽性結果の場合も名前や連絡先は一切得ず、紹介状は受検番号にて記載し、受診回答書も同番号での返信を医療機関に依頼した。本人の受診時期や受診医療機関についての決定を尊重し病院への同行はしないこととした。
- ⑥事業評価のため、受検者数・結果受取数・陽性結果数等を把握すること、また医療機関へ受診回答書の返信を依頼し、陽性とわかった人の受診率を把握することとした。受検者には任意記入の感想アンケートへの協力を依頼した。

●実施概要

実施日時：2010年10月10日（日）&11日（月祝）

採血 10月10日 13:00～19:30（検査案内・検査受付は17:30まで）

スクリーニング検査結果通知 10月10日 14:30～20:00（受付は19:30まで）

確認検査 10月10日 19:30～24:00

確認検査結果通知 10月11日 14:00～21:00（予約制）

検査項目：HIV（匿名検査）

検査方法：迅速スクリーニング検査（イムノクロマトグラフィ法（IC法）、陽性の場合は追加検査として粒子凝集法（PA法）も実施）と確認検査

採血：PLuS+ FINAL 開催会場にブースのひとつとして検査会案内所を配置し、その奥に採血エリアを設置。

結果通知：スクリーニング検査結果は、採血日（10月10日）に隣接する大阪市北区保健福祉センターで通知。

採血から約1時間後にはほぼ採血順に「陰性」もしくは「要確認検査」の結果を通知。

スクリーニング検査の結果が「要確認検査」であった場合は、翌日（10月11日）に北区保健福祉センターに隣接する北区民センターにおいて予約時間に「陰性」もしくは「陽性」結果を通知。

予定人数：最大200人（結果通知の可能な人数を基にして、1時間毎に定員上限を設定）

受検費用：受検者は一人PLuS+チケット3枚（＝300円）の負担

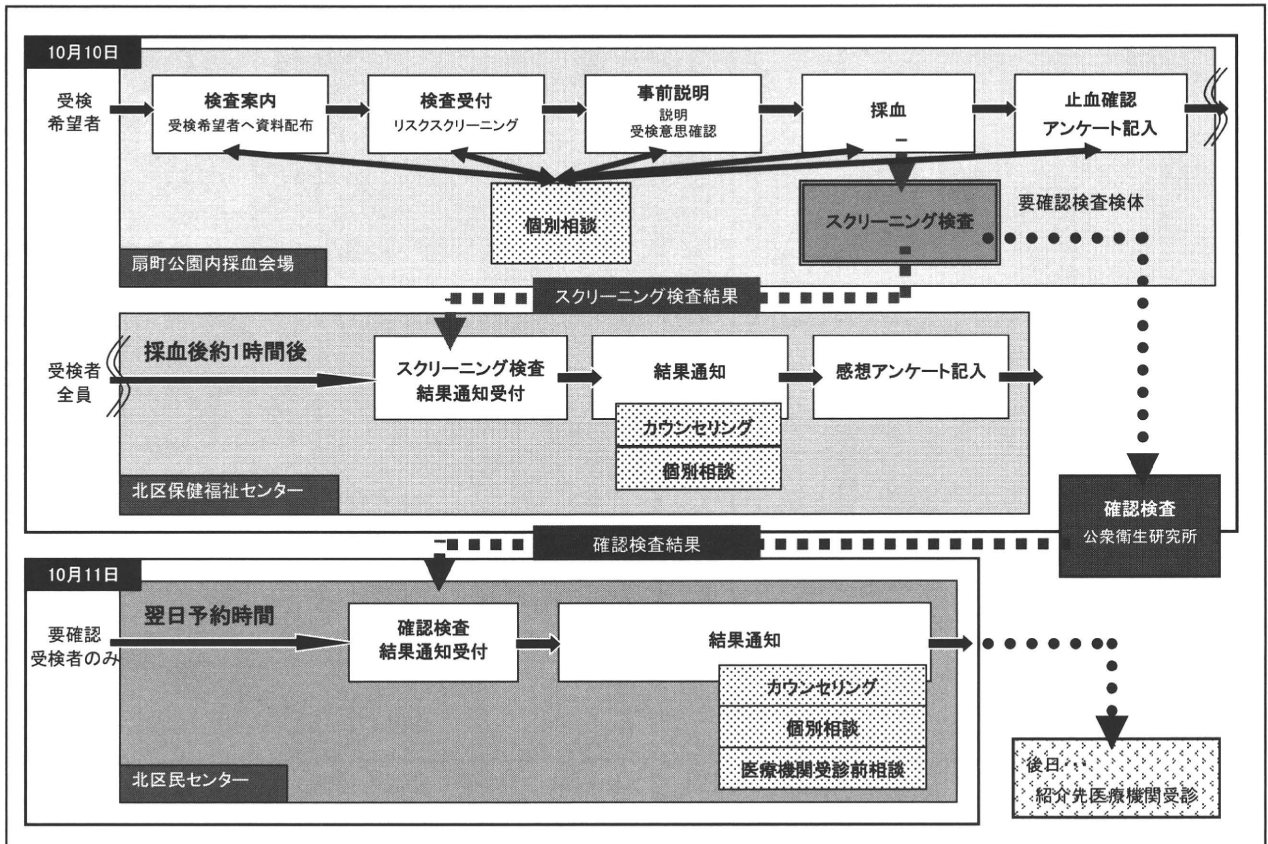


図1：実施運営体制

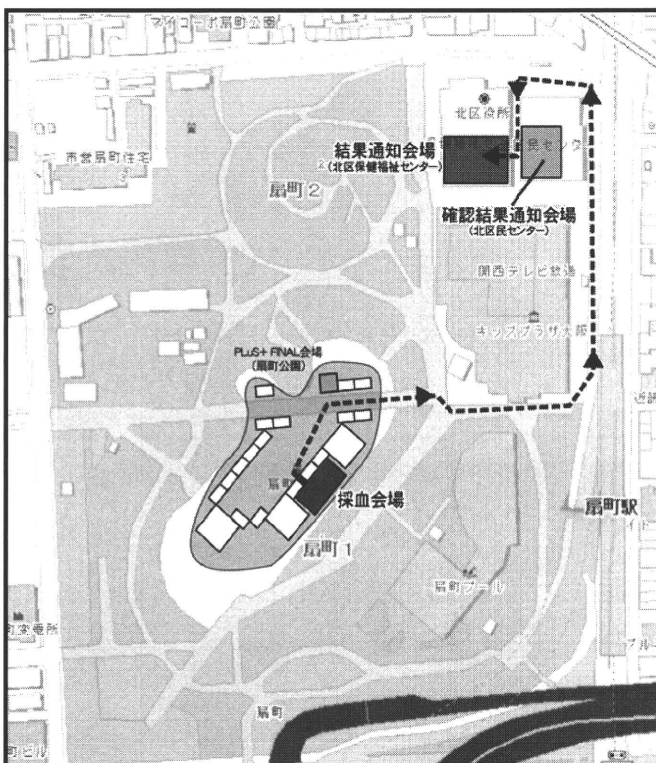


図2：会場全体図

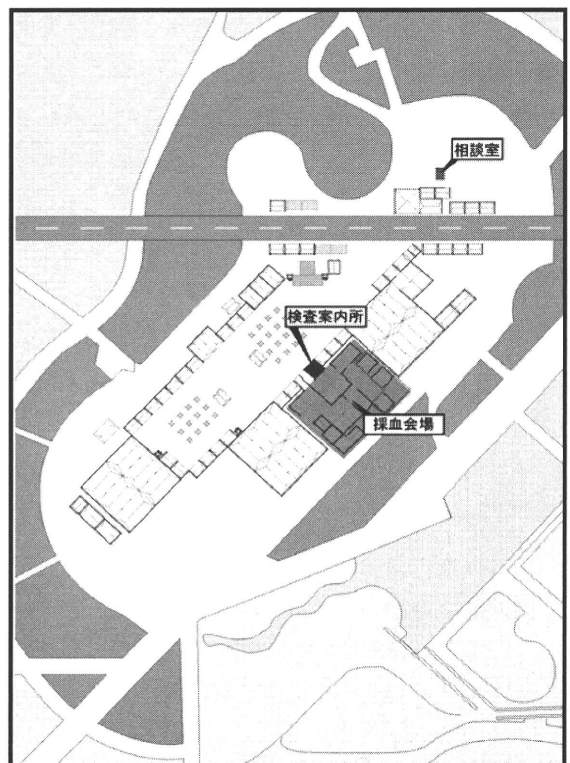


図3：扇町公園内配置図

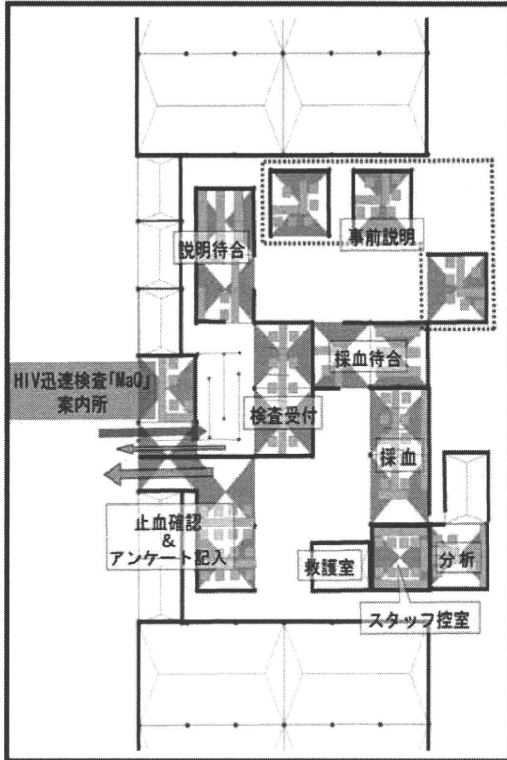


図4：採血会場図（詳細）

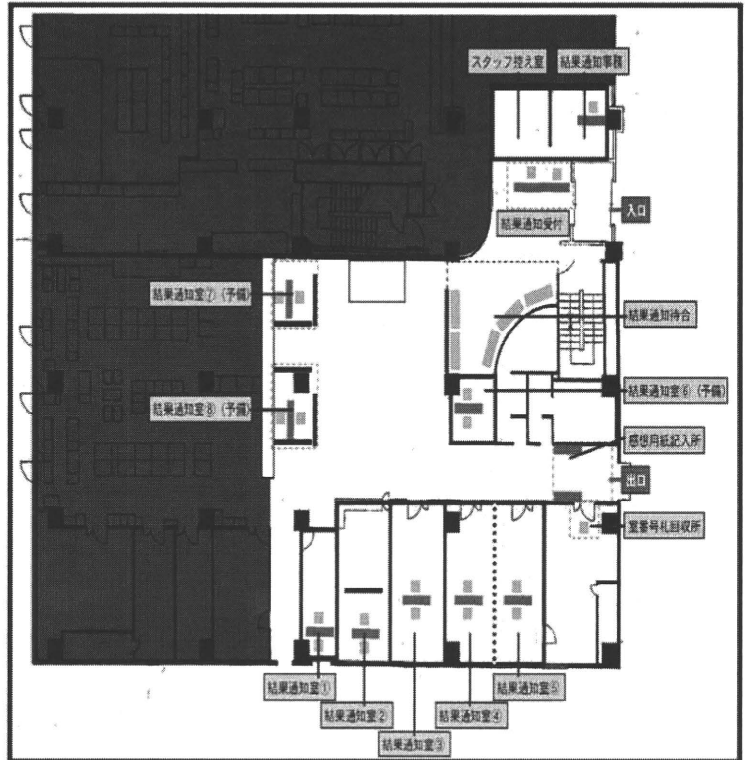


図5：スクリーニング結果通知会場図（詳細）

●各パートの役割と手順

【採血会場（PLuS+ FINAL メイン会場：扇町公園内）】

■全体統括■

採血会場オペレーション [スタッフ：1 枠]

役割：採血会場全体の管理と緊急時対応をする。

■検査案内所■

検査案内 [スタッフ：1 枠]

役割：検査会の案内をして検査会の資料を配布する。

- ・「今日のHIV迅速検査を受検希望される方へ」を、確認用紙と鉛筆のセットと共に配布する。
- ・検査会はHIVのみの検査であることを伝える（他の性感染症検査にも興味のある人にはクリニック検査の資料を配布）。
- ・「今日のHIV迅速検査を受検希望される方へ」を熟読した上で検査を受けるか判断するよう伝える。
- ・受検を希望する場合には、確認用紙に記入して検査場入口に来るよう伝える。
- ・検査の受付は17時半までであることを伝える。

受検者カウント [スタッフ：1 枠]

役割：結果通知時間を考慮して決定した毎時の受検可能人数をもとに、受検する人数をコントロールする。

- ・検査場入口から検査受付に行く受検者を数える（資料配布人数ではない）。
- ・毎時の受け入れ可能人数を表を参考に把握しておき、その人数を超えないようにコントロールする。時間帯での可能人数を超える人数が来場した場合には、次の時間帯を案内する。
- ・毎時の入り人数、キャンセル人数、受検者数を記録用紙に記入する。

チケット回収 [スタッフ：1 枠]

役割：検査場入口に入ってくる受検希望者 1 人あたり PLuS+チケット 3 枚を回収する。

- ・確認用紙の記入が済んでいるかをたずねる。まだの場合は記入してから戻って来るよう伝える。
- ・チケットを持っていない場合、総合受付で購入できることを伝える。

チケット払戻 [スタッフ：1 枠]

役割：受検を途中でキャンセルした人にチケット払い戻しの対応をする。

- ・受検キャンセル証明書もしくは検査結果引換証の切り離し部分と引き換えに、PLuS+チケット 3 枚を払い戻す。

■採血エリア■

検査受付 [スタッフ：5 枠 (5 ブース)]

役割：受検希望者に対し、「確認用紙」を用いて個別にリスクスクリーニングを実施する (1 人につき 5 分程度)。

- ・検査会の対象者であるかを確認する。
- ・本日受検の準備性を確認する。
- ・受検を希望するかを確認する。受検しない場合は、確認用紙と引き換えにキャンセル証明書を渡す。受検希望者には事前説明待合に進むよう案内する。
- ・必要に応じて個別相談を案内する (相談利用票を使用)。

事前説明待合 [スタッフ：2 枠]

役割：検査受付を終えた受検希望者に検査セットを渡し、事前説明につなぐ。

- ・受検希望者 5 人を 1 グループとして、順番に待たせる (検査受付に受検希望者が居ない場合は、必ずしも 5 人になるまで待つ必要はない)。
- ・確認用紙と引き換えに、検査セットを番号の若い順から受検者に渡す。(検査セット：結果引換証と番号シール、5 分間アンケート、アンケート用封筒)
- ・1 グループごとに、空いている事前説明のブース番号を案内する。

事前説明 [スタッフ：3 枠 (3 ブース)]

役割：1 グループごとに、全受検希望者に対し、採血前に必要な情報を提供し、受検意思の確認をする。

- ・事前説明資材に沿って、1 グループあたり、最大 5 名に 15 分程度で情報提供する。
- ・グループが案内されてきたら、人数に関わらず説明を開始する。
- ・資材の内容の範囲内の質問には回答するが、資材内容以上のことを付け加えない。
- ・グループによって、説明の内容を変えない。
- ・事前説明はあえて、一方通行の情報提供に徹する。相談を希望する人や個人的な話が出てくる場合は、個別相談を紹介する (途中で個別相談希望とわかった場合にも、意思確認の部分までは説明を終了する)。
- ・受検意思の最終確認をする。受検希望者に、結果引換証に受検するか否かの○をつけてもらう。
- ・この段階で受検キャンセル場合は、検査セットを回収し、払い戻しのため結果引換証の切り離し部分を本人に渡す。

採血待合 [スタッフ：2 枠]

役割：事前説明を終えた受検者を順番に待たせて、採血につなぐ。

採血 [スタッフ：5 枠 (5 ブース)]

役割：受検者番号シールを確認して、採血する。

- ・受検者から採血管用のシールを受け取る。
- ・真空採血管に受検者番号シールを貼付する。
- ・注射針と真空採血管を用いて採血する。
- ・採血管を回収ケースに入れる。

検体運搬 [スタッフ：1 枠]

役割：採血後の採血管を採血ブースから随時回収し、分析テントに運ぶ。

- ・採血ブースの後ろの机に設置してある回収ケースをケースごと回収して運ぶ。
- ・分析テントから空のケースを随時受け取り、採血ブースに戻す。
- ・救護室で採血が行われた分についても見逃さないように回収する。

止血確認 [スタッフ：1 枠]

役割：受検者が採血後に十分止血するのを確認する。

- ・本人が圧迫止血するのを確認する。
- ・十分に止血が出来ていない場合は、その場で適切な処置をする。

アンケート回収 [スタッフ：1 枠]

役割：採血後のアンケート記入場所で、場所の管理と 5 分間アンケート（戦略研究）記入や回収の声かけをする。

- ・受検者にアンケート記入の声かけをする。
- ・記入後は用紙を封筒に入れて、回収箱へ投函するよう伝える。
- ・終了した人に、1 時間後くらい（つまり〇時〇分ごろ）に結果を取りに行くよう伝える。

検査分析 [スタッフ：5 枠]

役割：スクリーニング検査を実施し、結果お知らせ票を作成する。

- ・受け取った検体を整理し、血清を遠心分離後、IC 法によるスクリーニング検査を実施する。
- ・スクリーニング検査陽性の場合、追加検査として PA 法も行なう。
- ・スクリーニング検査結果一覧表に結果を記入する。
- ・スクリーニング検査結果お知らせ票を作成し、結果伝達スタッフに渡す準備をして封筒に入れる。
- ・追加検査の結果も陽性で要確認検査となった検体を公衆衛生研究所に運搬し、翌日午後までに確認検査を行なう。

結果伝達 [スタッフ：2 枠]

役割：採血会場からスクリーニング結果通知会場へ受検者の結果お知らせ票を運ぶ。

- ・採血会場の分析テントから、結果お知らせ票の入った封筒を受け取る。
- ・封筒をそのまま結果通知会場にいる記録ホルダーに届ける。
- ・採血会場に戻る。上記を繰り返す。

個別相談（採血会場）受付 [スタッフ：1 枠]

役割：相談希望者を受け付けて、相談テントに案内する。

- ・相談希望者の受付をし、順番を管理する。

個別相談（採血会場） [スタッフ：1 枠]

役割：相談テントにおいて、相談希望者に対応する。

- ・相談希望者の持参する相談利用票を確認し、検査の流れのどの段階にいる人かを確認して対応する。

【スクリーニング結果通知会場（大阪市北区保健福祉センター）】

オペレーター／記録ホルダー [スタッフ：1 枠]

役割：会場全体の管理と、結果お知らせ票の準備や管理をする。

- ・結果伝達スタッフからスクリーニング検査結果お知らせ票を受け取り、管理する。
- ・結果セット（結果お知らせ票入り封筒と持ち帰り用資材）を準備する。
- ・来場した受検者の結果引換証切り離し部分を受付スタッフから受け取る。
- ・受検者の受付順に、結果通知部屋番号を結果セットに設置して、管理し、案内スタッフに渡す。
- ・結果通知の準備が完了している番号を常に把握し、必要に応じてイベント会場に伝達する。
- ・緊急連絡先にかかってくる電話に対応する。

オペレーション補助1 [スタッフ：1 枠]

役割：スタッフ管理と確認検査結果通知の予約対応をする。

- ・シフトに入るスタッフの管理をし、シフト交代などへの対応をする。
- ・確認検査結果通知の予約の対応をする。結果通知スタッフから電話を受けたら予約を取る。
- ・結果通知スタッフからカウンセラーや個別相談員の要請を受け、必要スタッフに部屋番号を伝える。
- ・オペレーターの指示により、結果通知に入る。

オペレーション補助2 [スタッフ：1 枠]

役割：結果通知部屋の稼働状況を把握する。

- ・出口（回収）スタッフから空いた部屋の番号の連絡を随時受ける。
- ・空いた部屋の番号を付箋に書き、順番に並べる。

結果通知受付 [スタッフ：2 枠]

役割：来場した受検者の受付対応をして、待合に案内する。

- ・受検者の結果引換証を確認し、切り離し部分を回収する。
- ・結果引換証の番号を結果通知受付表に記録する。切り離し部分は受付順に記録ホルダーに渡す。
- ・番号で呼ばれるまで待合で待つよう、受検者に伝える。

案内 [スタッフ：2 枠]

役割：受検者を待合から結果通知部屋へ案内する。結果セットを運搬する。

- ・記録ホルダーから結果セットをひとつずつ受け取る。
- ・セットに設置してある部屋番号と結果封筒（窓から受検番号が見える）を確認する。
- ・待合で受検者の番号を呼び、結果引換証を見せてもらい、番号を照合する。
- ・受検者を結果通知部屋に案内する。
- ・結果セットのファイルは帰りにアンケートを出すところに返却するよう受検者に伝える。
- ・結果セットを、結果通知スタッフに渡す（受検者には渡さない）。

結果通知 [スタッフ：5 枠]

役割：スクリーニング検査結果を通知し、その意味を説明する。必要に応じて、カウンセラーや個別相談員につなぐ。

- ・検査結果引換証と結果お知らせ票の受検者番号の照合確認をする。
- ・結果を通知し、その意味を受検者にわかりやすく説明する。結果セットに入っている資料を渡す。
- ・陰性結果の場合は、受検のきっかけになった行為の振り返りを支援し、必要に応じて個別相談員につなぐ。結果引換証と結果お知らせ票は全員分回収する。
- ・要確認検査の結果は、医師が通知する。同行者の有無、どのくらい時間が取れるか確認する。陽性の可能性があり、確認検査が必要であることを説明し、翌日の結果通知につながるように配慮して対応する。オペレーター補助に電話をして、確認検査結果の通知時間の予約をして、検査結果引換証に記入して本人に返却する。必ずカウンセラーと連携して対応するために、カウンセラーの手配をする。結果お知らせ票は回収する。
- ・受検者が退室してから、簡単な記録をつける。

カウンセリング [スタッフ：2～3 枠]

役割：要確認検査結果だった人に対して、カウンセリングを実施する。

- ・スタッフ控え室に待機し、要請に応じて結果通知スタッフを入れ替わりで結果通知部屋に入る。
- ・終了後はスタッフ控え室に戻って記録をつける。

個別相談（結果通知会場） [スタッフ：1 枠]

役割：結果通知後の相談希望者に対応する。

- ・スタッフ控え室に待機し、要請に応じて結果通知スタッフと入れ替わりで結果通知部屋に入る。
- ・終了後は記録をつける。

出口（回収） [スタッフ：1 枠]

役割：結果セットファイルを回収し、結果通知部屋の移動状況を把握する。空いた部屋についてオペレーター補助に随時連絡する。

- ・結果通知部屋から出てきた受検者にファイル回収の声かけをする。
- ・アンケート記入の声かけをする。
- ・回収したファイルについている部屋番号を確認し、オペレーター補助に随時内線にて連絡を入れる。

その他の相談など

- ・POSP 電話相談が当日に臨時で相談実施。(10月10日～16日14時半～21時)

【確認検査実施（大阪府立公衆衛生研究所）】

検体分析 [スタッフ：2～4 枠]

役割：要確認検査結果となったものの確認検査を実施する。

- ・確認検査を実施する。
- ・結果お知らせ票を11日のオペレーターに手渡しする。

【確認検査結果お知らせ会場】

結果通知受付／オペレーター [スタッフ：1 枠]

役割：受検者の受付とスタッフの管理をする。

- ・受検者の検査結果引換証と予約表の確認をする。
- ・結果お知らせ票や資材を準備する。
- ・医師・カウンセラーからのつなぎ電話に対応し、案内スタッフに伝える。

案内 [スタッフ：2 枠]

役割：結果通知部屋の稼働状況を把握し、受検者を案内する。

- ・受検者を番号でよび、番号を確認した上で、結果通知部屋へ案内する。
- ・オペレーターの指示により、必要スタッフを呼ぶ。

確認検査結果通知 [スタッフ：4 枠]

役割：確認検査結果を通知し、その意味を説明する。

- ・検査結果引換証と結果お知らせ票の番号の照合確認をする。
- ・同行者の有無、どのくらい時間が取れるか確認する。
- ・結果を通知し、その意味をわかりやすく説明する。
- ・陰性結果の場合は、受検のきっかけになった行為の振り返りを支援する。必要に応じてカウンセラーにつなぐ。
- ・陽性の場合は、昨日の結果通知でどのくらい説明を聞いたか、また本人の理解を確認しながら、HIV 感染症の基本的事項を説明する。受検者が受診しやすい医療機関を選択できるように情報提供をする。受診予定機関が決まったら、紹介状を作成し、受診方法を具体的に説明する。医療機関が決まらない場合は、宛名を空白にした紹介状を発行する。紹介状・確認検査結果票・受診回答書・返信用封筒が入った封筒を受検者に渡す。持ち帰り資料を提供する。
- ・本日相談できることを案内し、カウンセラーにつなぐ。
- ・検査結果引換証は全員分回収する。
- ・スタッフ控え室に戻って、記録を書く。

カウンセリング [スタッフ：3 枠]

役割：陽性とわかった人に対して、カウンセリングを実施する。

- ・結果通知を担当する医師と連携して、陽性結果を受け取った受検者に対応する。場合によっては、医療機関選択の手伝いもする。
- ・必要に応じて、受診前相談につなぐ。

受診前相談 [スタッフ：2 枠]

役割：カウンセラーの要請に応じて、経済的問題・保険証等、受診のために必要な受診前相談を担当する。

その他の相談など

- ・POSP 電話相談が翌週に臨時で相談実施。(10月12日～16日19時～21時)

【その他の準備や対応】

■結果を受け取りに来なかった人への対応■

⇒緊急連絡先に電話があった場合に対応する

10日と11日は携帯番号、12日以降は大阪市保健所の電話番号（結果引換証に両方記載）で対応。

- ・緊急連絡先での対応：10日・11日のみ

受検者に、緊急連絡電話番号について、事前説明時に案内する。

結果を受け取りに来られない電話や後日結果についての問い合わせがあった場合には、大阪市保健所に電話をするように伝える。

確認検査結果通知の予約時には、明日予約時間に来られなくなった場合は必ず連絡をするように伝える。

- ・大阪市保健所での対応：12日以降

スクリーニング検査結果及び確認検査結果を取りにこなかった人から連絡があった場合に対応。

結果票は3ヵ月間保管する。

結果通知希望者へは大阪市保健所にて予約を取って対応する。

■針刺し事故への対応■

- ・大阪市総合医療センターの協力を得て対応する。
- ・事故対応者を決定し、対応マニュアルに基づき行動する。
- ・採血者に保険をかける。

■廃棄物処理■

- ・感染性廃棄物の処理は、大阪府立公衆衛生研究所が担う。

●実施結果 1 「受検者について」

【受検者の概要】

検査案内所で受検を希望する方のための資材を配布した結果、214人が採血会場に来場した。検査受付にて個別にリスクスクリーニングを実施した結果42人が受検しないことになり、172人に検査セット（受検番号）を発行した。事前説明待合および事前説明にて3人が受検をキャンセルしたため、採血まで実施したのは169人であった。169人全員がスクリーニング検査結果を受け取った。そのうち6人が要確認検査結果であった。6人には医師から結果を通知・説明した上で、カウンセリングを案内し、1人がカウンセリングを利用した。確認検査の結果、要確認であった6人全員が陽性結果であり、全員が翌日に結果を受け取った。医師が結果を通知・説明し、その後カウンセリングを利用したのは4人、受診前相談を利用したのは2人であった。6人全員に医療機関を紹介し、受診したことを知らせる医療機関からの受診回答書が6人分すでに送られてきている。個別相談を利用したのは計4人であった。1人は採血会場にてサポート関連ブースからの連携で利用、3人は結果会場で結果通知後に利用した（図6）。

本検査会では、事前説明の前に検査受付にてリスクスクリーニングを導入した。受検希望者が記入した確認用紙を用いて、担当者が個別に、HIV感染リスク行為の有無、受検経験、結果受取が可能か、イベント会場での検査であるが受検希望するか、について本人と確認した。その結果、42人は受検しないことになった（表1）。受検をしないことになった理由は（確認用紙から読み取れる範囲）、感染リスク行為がない8人、前回受検してから感染リスク行為がない6人、感染リスクが低い3人、明日結果受取りに来られない16人、定期的を受検している7人、不明1人、用紙なし1人であった。

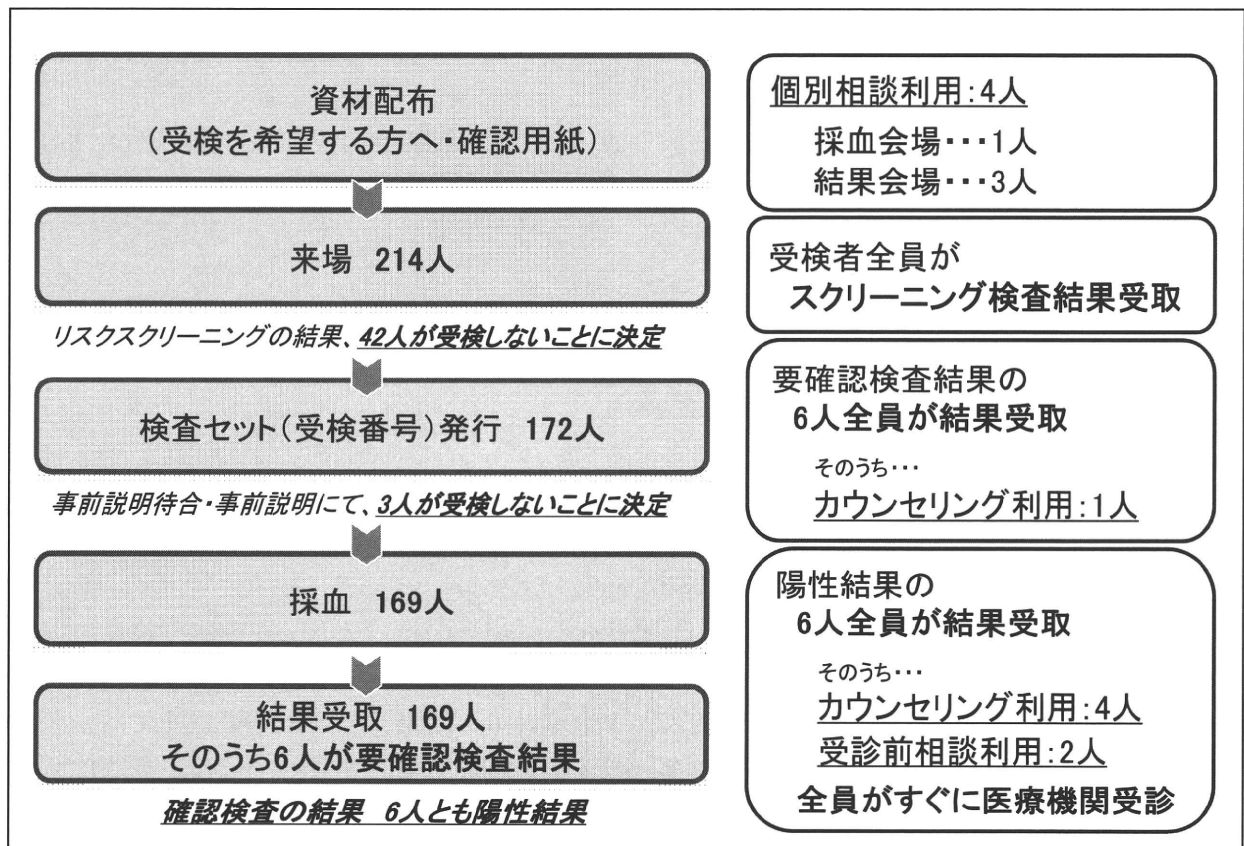


図6：受検者の状況

表1：受検者の来場と受検状況、及び結果通知状況

時間帯	受検受付可能 最大人数	採血会場への 入り人数	検査受付における キャンセル人数	受検番号発行数	結果通知人数
13:00～14:00	34人	38人	4人	34	
14:00～15:00	44人	57人	14人	43	17人
15:00～16:00	44人	54人	12人	42	35人
16:00～17:00	44人	36人	5人	31	42人
17:00～18:00	34人	29人	7人	22	33人
18:00～19:00					40人
19:00～20:00					2人
計	200人	214人	42人	172人 (*2)	169人

*1 検査受付時間：13時開始～17時半受付終了、結果通知受付時間：14時半開始～19時半受付終了

*2 受検番号発行後、事前説明待合及び事前説明にて受検キャンセルを決定した人が3名。

【受検者感想アンケートの回答結果】

<受検者の特性（表2-1）>

結果通知後に受検者に匿名感想アンケート用紙を任意に記入してもらった。回収数は169部（回収率100%）であった。受検者のうち男性が90%強を占めた（図7）。同性間のみ、および同性間と異性間の性経験のある男性は147人で、受検者の87%であった（図8）。この147人をMSMとして集計した。

受検者の居住地は全国各地に及んでおり、和歌山県以外の近畿府県が含まれた。MSM受検者のうち118人（80%）が関西居住者であった（図9）。受検者のうちHIV陽性結果を受け取ったのは6人で、結果通知時にその全員が関西居住のMSMと把握できている。受検者の陽性割合については、受検者総数169人のうちの陽性割合は3.6%、MSM受検者147人のうちの陽性割合は4.1%、関西居住MSM118人のうちの陽性割合は5.1%であった。

MSM受検者の約半数が20歳代で、20～30歳代が80%を占めた。40歳代は14%であった（図10）。MSMの39人はこれまでに受検したことがなく、65人は過去1年間に受検していない人であった。つまり少なくともMSMの104人（70%）は検査会の対象と設定した層であったといえる（図11）。なお、これまでに受検したことがなかった39人のうち、検査意図はあったが受検したことがなかった人は25人（MSM受検者の17%）であった（図12）。

本検査会では、対象層を限定し、検査を受けることを目的にイベント会場に多数の人が来ることを避けるため、事前広報をしなかった。検査については、PLuS+パンフレット及びホームページにブースのひとつとして紹介するに留め、当日イベント会場にて検査ブースを見て知ってもらうことを目指した。感想アンケート回答から情報源についてみると、ブースを見て受検した人が最多であった。身近な人から聞いた人には、事前に聞いた人もいる可能性もあるが、会場内で聞いた人も含まれると考える（図13）。MSM受検者の受検理由として、最も高い割合（61%）だったのは「自分にも感染の可能性があるから」であった。次いで「イベントのついでに受けられたから」（48%）、「迅速検査ですぐに結果がわかるから」（47%）であり、約半数の受検者がこの検査会の特性を受検理由としていたことがわかった（図14）。これまでのPLuS+への来場回数は、1回が27%、2回が21%、3回以上は26%であり、25%は初来場であった。過去6ヶ月間の施設等の利用に関しては、ゲイバー81%、ゲイナイト52%、ゲイショップ39%、有料ハッテン場47%、PC出会い系サイト24%、携帯出会い系サイト46%、SNS56%であった。MASH大阪について以前から知っていたのは57%、distaについて以前から知っていたのは69%であった。

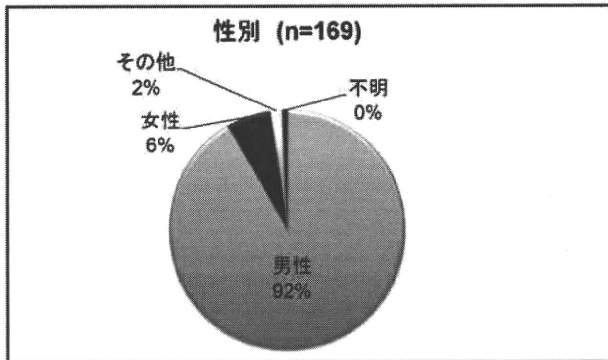


図7：受検者の性別

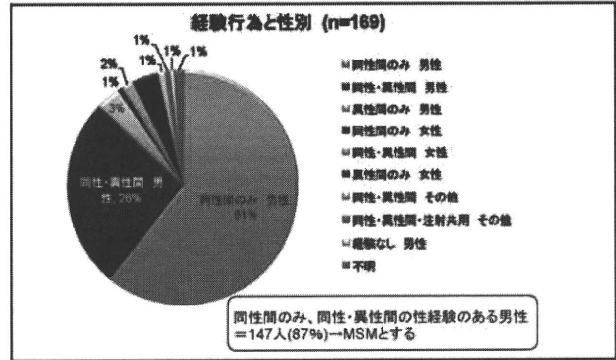


図8：受検者の行為と性別

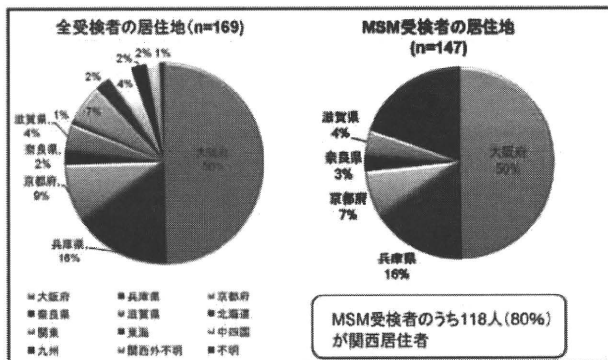


図9：受検者の居住地

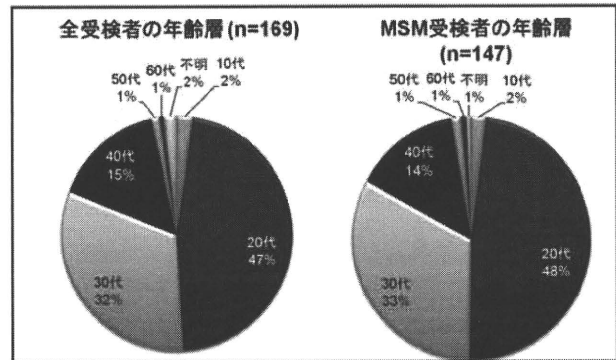


図10：受検者の年齢層

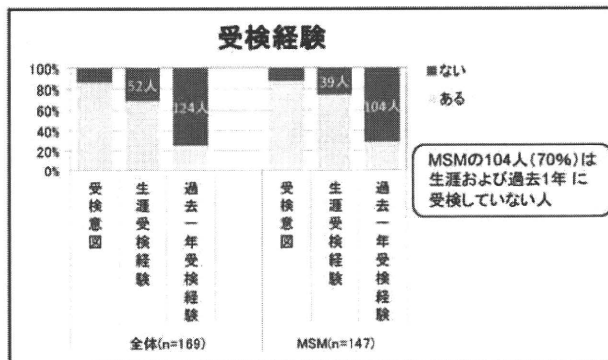


図11：受検者の受検経験

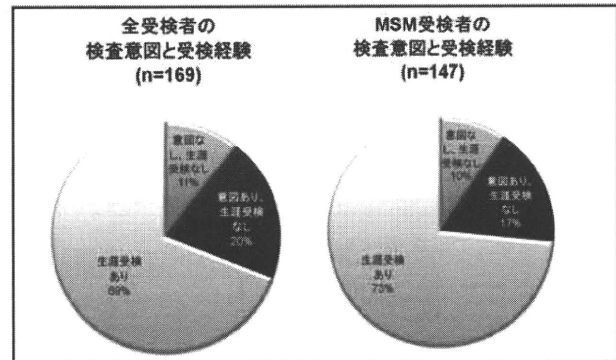


図12：受検者の受検意図と受検経験

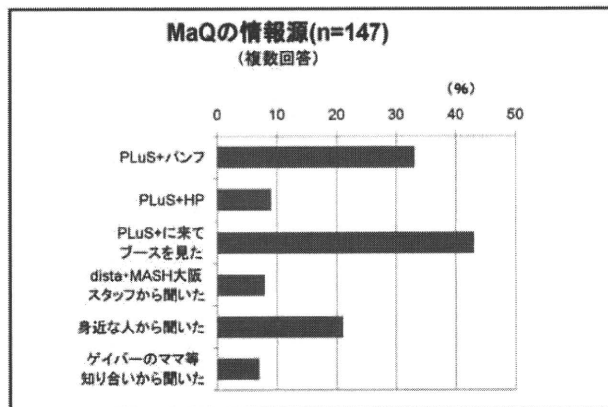


図13：MSM受検者のMaQを知った経緯

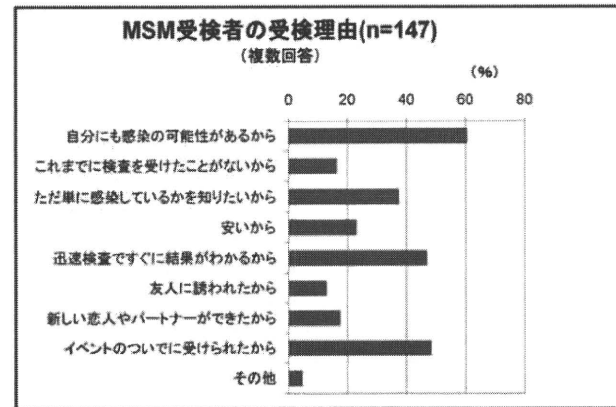


図14：MSM受検者の受検理由

<受検者による評価・満足度（表2-2）>

感想アンケートにて、受検者に検査会についての評価や満足度を聞いた。検査手順、検査結果の受け取り方法、検査結果お知らせ時の説明について「説明がなかった」「非常にわかりにくかった」と答えた受検者はいなかった。MSM受検者のうち、検査手順が「ややわかりにくかった」としたのは6%、検査結果の受け取り方法が「ややわかりにくかった」としたのは6%、検査結果お知らせ時の説明が「ややわかりにくかった」としたのは3%であった。満足度について、不満度が高かった（「やや不満」もしくは「不満」の回答）項目は「受付から採血までの待ち時間」22%、「結果お知らせの待ち時間」17%であった。

結果お知らせの受付から結果通知までの待ち時間が20分以上であったのは16時半頃から17時頃の間で、最長47分の待ち時間であった。全受検者のうち、待ち時間が30分以上であったのは5人、20分～30分であったのは15人、10分～20分であったのは42人、0～10分であったのは107人であった。

今回検査を受けて「良かった」としたのは全受検者の97%、「良くなかった」としたのは0.6%、「どちらでもない」としたのは2%であった。「どちらでもない」とした人の理由は「結果の紙が欲しかった」というものであった。「良かった」とした人の理由のうち、主な内容と記述の抜粋は以下のとおりである。

受検する機会を得た

「なかなか勇気が持てず、たまたま会場に設置されていたので良い機会になった」

「ふだん仕事しているので、なかなか時間がないのでこういうのは助かります」

「こういうキッカケがないとなかなか受けないから」

「ずっと行こうと思ってたので、その機会を得られたのでよかった」

「自分から予約とかがして行くとなると不安もあり、なかなか決断できなかったので」

「普通に保健所へ行くのは少し勇気がいるので、今日ブースにこういう検査があることによって安心感があるから」

気軽さ

「安く気軽にできたから」

「すぐに結果を知れ、安く受けれたので」

「短い時間で検査を受けることができるから」

「イベント会場でできるなんて手軽でよかった」

自分の状態を知れた

「自分の体の状態がわかったから」

「久しぶりに自分を知る機会ができたから」

「検査受けたことがなかったのでよかった」

今後への意識の高まり

「もう一度HIVについて考えなおせた」

「自分が今までHIVに感染していないか不安だったので、安心したと同時に予防への意識が高まった」

「知識が増えた。意識が高まった」

「セーフターセックスを守ってるつもりだが・・自分の為、大事な相方の為にも守り続ける意欲がわいた」

対応について

「また受けようと思う雰囲気だったから」

「いろいろ聞けたから」

「結果を教えてくれる方がとても安心できる話し方の方でした」

「わかりやすかった」